

# ふれあい名古屋



【特集】福祉クローズアップ

## 死後の葬儀、家財の処分 — 高齢者の不安を軽減する「なごやかエンディングサポート事業」

名古屋市社会福祉協議会 権利擁護推進部 なごやかエンディングサポート事業担当職員

### CONTENTS

社協活動最前線 千種区社会福祉協議会	4
想いをつなぐリレートーク / ながら体操	5
ほっとはあとコーナー	6
● 臨時コーナー	
NPO 法人チェルノブイリ救援・中部	
● ボランティア・NPOウォッチング	
こだまおもちゃ病院 / らっこ会	
● きらっとボランティア・NPOらいぶ	
中部ESD拠点 (NPO)	
● 地区のオススメのボランティア	
フレンズ	
からだに優しいいきいきレシピ / プレゼントつきクイズ	10
インフォメーション	11
ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介	12

今回の特集は、  
令和3年2月から開始した  
「エンディングサポート事業」  
についてお話を伺いました。  
関連記事：2・3ページ



特集：福祉クローズアップ



# 死後の葬儀、家財の処分 — 高齢者の不安を軽減する「なごやかエンディングサポート事業」

名古屋市社会福祉協議会は令和3年2月より、死後の葬儀や家財処分、行政への届け出などをサポートする「なごやかエンディングサポート事業（以下、エンディング事業）」を始めました。自分が死んだ後に不安を抱いている高齢者に、少しでも気掛かりを減らしてもらうことが目的です。

事業を利用できるのは、名古屋市内に住む70歳以上の高齢者で、契約能力を有すること、子や孫がいないこと、預託金50万円以上（葬儀、死亡後の債務の支払い等に必要）を納められること、公正証書遺言による遺言執行者を決めておくことなど7つの条件があり、全てを満たす人に限られます。

死後の葬儀や納骨等の支援は他の自治体や民間企業でも行っていますが、名古屋市社協のエンディング事業は見守りや入退院時の支援など、生前中の支援にも力を入れています。事業の現状や展望について職員に話を伺いました。

## 生前に預けた「預託金」で死後の葬儀などを行う

名古屋市社協には以前から「賃貸住宅で一人暮らしの高齢者が亡くなった後、葬儀はどうか、家財はどう処分すればいいか」といった相談が、いきいき支援センターやケアマネジャー、市営住宅などから寄せられていました。高齢者本人からも「死んだ後に周囲に迷惑をかけたくないが、どうすればいいか」といった不安の声を聞くことがありました。このようなニーズの高まりを重く受け止め、法人後見センターなごやかぽーと（権利擁護推進部）では「なごやかエンディングサポート事業」を開始しました。

事業のサービス内容と費用の概要です。

①「死後」：葬儀、納骨、債務の支払い、行政への届け出など（預託金50万円以上）。家財の処分（業者の見積額を預託金とする）。

②「生前」：ア)電話と訪問による見守り・安否確認（年間1万1,000円）。イ)希望者に入院時の荷物の準備や付き添いなどの入退院時支援（職員の同行1回3,300円など）。

預託金の金額は希望する葬儀、納骨方法などによって異なってきます。余れば遺言執行者へ返還されます。また、契約時費用として1万6,500円必要です。

入院や施設入所の際に求められる身元保証サービスは行っていませんが、預託金を預かることである程度、身元保証の代わりになると考えられています。

## 契約者は70～90代の女性が多い

エンディング事業への問い合わせは半数以上が本人からで、残りはケアマネジャー、いきいき支援センターなどからとなります。

契約までの流れとしては、まず面談で職員に



葬儀や債務の支払い、家財の処分方法などの希望を伝え、申し込み後の審査に通ったら、支援内容の検討、公正証書遺言の作成を経て、契約となります。相談の受付から契約までは2~3カ月、長ければ半年以上かかることもあります。死後について明確な考えを持っている人ばかりではないため、多いときは10回以上面談を重ねることも。

職員が面談で心掛けているのは、相談者の意思を尊重すること。親族の意見も大切ですが、自分の葬儀をどういう形にしたいか、医療なら延命治療をするかしないかなど、本人の希望を丁寧に聞き出します。

現在までの契約者（予定含む）は70代から90代の26名。男性6名、女性20名で、夫婦が一組います。当初は全く身寄りのない人を想定していたのですが、実際はきょうだいや親類がいても疎遠で頼ることができない高齢者からの申し込みが多いそうです。また、通夜や告別式を行わない直葬を希望する人が多かったのも想定外だったといえます。

契約者の一例として、親族と問題が生じて死後の手続きが心配になり、複数の身元保証会社に問い合わせたが、会社が無認可だったり預託金が高額で決められずにいたところ、エンディング事業を知って契約を結び、悩みが解決されてとても明るくなった方がいたそうです。

## 生きている間も地域参加などを支援

名古屋市社協ならではの特徴は、契約者には生前のサポートも行っていることです。電話や訪問での見守りと安否確認、入退院時支援以外に、「長く仕事を続けて来た方が多いので、そ



名古屋市社会福祉協議会  
権利擁護推進部 次長  
野川 すみれさん

の経験を生かしてご本人が活躍できるような機会を設けたいと思い、居場所や地域参加の提案も行っている」と野川さん。高須さんも「この事業に申し込む人は、死後も心配だが生きている間も心配。そういった方には、社

協の他部門と連携して亡くなるまで見守っていきたい」と話します。

通常の福祉業務では、施設に入所するとケアマネジャーが替わったり、退院すると病院のケースワーカーとの関わりが途絶えたりします。

しかしエンディング事業は、契約者が施設や病院へ入ってもずっと事業の職員が関わるため、契約者は安心できるといえます。



名古屋市社会福祉協議会  
権利擁護推進部 主事  
高須 美貴さん

## 現在は制度が使える人は限定的。将来は幅広い人が利用できるように

事業が始まってから亡くなった契約者が1名おり、エンディング事業では初のサポートを実施しました。携帯電話の親族以外での契約解除が大変だったり、請求月の関係でさまざまな支払いに2~3カ月要したり、思いのほか時間がかかっているそうです。

社協としては葬儀社、お寺などに関わる事業は少ないので、現在は手探り状態でノウハウを蓄積している最中です。野川さんは「相談者からは相続の問題についても聞かれる。ある程度答えられないと信頼されないので勉強しています」。高須さんは「社協の仕事は揺りかごから墓場までと言われるが、いよいよ墓場まで来たと実感している。死後を心配している高齢者は多くニーズは高いと思うが、70歳以上などの制約がある。もう少し幅広い人が使える事業にしていければ」と今後の抱負を話してもらいました。

超高齢社会を迎えた日本では、ますます必要性が高まると予想されるエンディング事業。増加するニーズにいかにか柔軟に responding できるかが今後の課題となりそうです。

### ●連絡先

なごやかエンディングサポート事業専用ダイヤル  
TEL：052-380-8294  
受付時間：月曜～金曜 午前9時～午後5時  
FAX：052-919-7585

Vol.49

今回は

## 千種区社会福祉協議会

千種区社会福祉協議会

## 社協と大学がコラボし、大学でサロンを開催「SHUKUTOKU(淑徳)-CAFE」

世代間交流を目的に、月に1回、  
大学で「サロン」を開催

愛知淑徳大学の星が丘キャンパスで4月28日午前、地域住民と学生がコーヒーを片手におしゃべりを楽しむ「SHUKUTOKU(淑徳)-CAFE」が開かれました。交流を目的に大学でサロンを行うのは珍しい取り組みです。

サロンは、第4次地域福祉活動計画（以降、「4次計画」）の取り組みの一環で、子どもから高齢者、障がいのある方など幅広い世代が出会い、つながる「多世代の交流」を目的に開催されます。

開催のきっかけは、4次計画の推進委員長である同大学福祉貢献学部の黒川文子先生からのアドバイスと学生の社会貢献をサポートするコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）の秋田有加里さんが推進委員として活躍いただいていたからです。

秋田さんの協力により、今回の本格開催に先立ち、昨年12月に試行開催したところ、学生25名、地域住民の方15名が集まり、おしゃべりやクイズ大会などで会場は大盛り上がり!“これならいける!”と活動計画の推進委員とCCCが準備に準備を重ね、今回の開催に至りました。

また、このサロンを支えるのは、コーヒーボランティア“あじさい”の皆さん。普段は、高齢者サロンなどに出向き、豆から挽く本格コーヒーを淹れながら、介護予防につながる音読・体操などのプログラムを実施しています。メンバー12名のうち、男性が約9割を占めていて、社協職員さん曰く、“多くのファンがいて、人気のグループです”とのこと。



(後列左から)  
千種区社会福祉協議会 地域福祉推進スタッフ 横井裕子さん 主事 田原 綾さん  
愛知淑徳大学学生参加者の皆さん

(前列左から)  
愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）秋田有加里さん  
コーヒーボランティアあじさい 松井きみ子さん 宮田和雄さん 代表 清水正義さん

異なる世代との出会いが  
新たなつながりのきっかけに

さて当日は、学生団体の「あじゅあす」、「ユニコマPlus+」などの学生、民生委員さん、近隣の高齢の方々など総勢30名が集まり、テーブルごとに千種区のお勧めスポット、地域の歴史、防災の話、趣味、学生生活などの話題で終始話が弾んでいました。

学生からは「普段は歳の近い人とは話す機会がないので、いろいろな話ができて楽しかった」「自分の知識が1だとすると1万の知識を返してもらった感じ」、地域住民からは「大学の近くに住んでいるがキャンパスに入るのは初めて。学生さんと直接話ができる良い機会だった」、あじさいのみなさんからは「コーヒーが美味しかったと言われ、やりがいや励みになる」「男性は家にこもりがち。外に出るきっかけになっていい」などの感想が寄せられました。

今後の展望について、秋田さんは「学生にとって、大学の周りにはこんな方が住み、こんな思いで生活していることを知る貴重な機会。いずれは地域の方が困っていることを学生がお手伝いできれば」と熱く語られます。

また、社協の田原さんは、「地域の皆さんが、世代を超えて交流できる場として、同時に学生さんたちも楽しく参加できるよう続けていきたい」、担当の横井さんは「家にこもりがちな男性が、社会参加のきっかけとなり、このカフェが楽しい交流の場となるよう、あじさいのみなさんや学生さんの協力を得て活動していきたい」と抱負を話されました。

今後の千種区社協に乞うご期待です!

想いをつなぐ

リレートーク 49

楓林花の里  
副施設長 はやし ふみのり 林 史典さん



先日、地域の方とお話する機会があり、その方は週1回一人暮らし高齢者の安否確認のボランティアをされておられるとのことでした。私自身、高齢者福祉に携わりながらも、施設の周辺地域でそのようなボランティア活動が行われていることに気付いていませんでした。

私たち施設で働く職員は、とかく“施設の中”のこと、ご利用者様へのより良いケア、そのための人材確保や育成、快適にご利用いただくための環境整備など、目の前の課題に追われがちです。

今年の春、施設のご利用者様と地域の公園に散歩したときのことを法人のInstagramに掲載したところ、思いがけず多くの方に見ていただきました。お花見シーズンということもあり、公園にある桜の開花の様子や、池での魚釣りの様子などが目に留まったのでしょうか。これも地域の魅力があってこそ多くの方々に見ていただけたのではないかと思います。

かつて日本各地で活躍した近江商人が大切にしていた、買い手よし売り手よし世間よしという「三方よし」の精神が改めて評価されていることを、最近耳にしました。お客様はもちろんのこと、それぞれの地域の幸せを大切にしてきた結果、より信頼を得て商売が繁盛し事業が大きく長く続いたそうです。

地域の事を身近に感じながら、施設の運営に取り組む方策を模索し、“地域の中”にある施設として、私なりに頑張っていきたいと考えています。

今回は ゆたか作業所 所長 よしだ ひろし 吉田 博さんへバトンタッチ



椅子に座って

## ながら体操

仕事や家事の合間に、「椅子に座りながら」できる体操です。

## 第16回 首の前のストレッチ

首の前の筋肉を伸ばして首や肩のこりをほぐし、スマホ首（ストレートネック）を改善します。

1 首の前を縦に伸ばします。まず、鎖骨の下で両手をクロスし、皮膚を下に引っ張ります。



2 顎を上げて、視線を天井に向けます。口は閉じたまま、呼吸を止めずに10秒キープ。



3 次に、首の前を斜めに伸ばします。左の鎖骨の下で両手を重ね、皮膚を下に引っ張ります。



4 右上を見て10秒キープ。左右を変えて、繰り返します。





本号のテーマ

# 臨時コーナー ウクライナ支援の過去と今

(インタビュー：シャオムー)

## NPO 法人チェルノブイリ救援・中部

ウクライナとロシアの緊張関係は今も予断を許さない状況ですが、今回ご紹介するのは、36年前に起きたチェルノブイリ原子力発電所の爆発を契機に被災地や被災者の支援を積極的に展開する「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」です。理事の河田さんに話を伺いました。



NPO 法人チェルノブイリ救援・中部の皆さん

### ●「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」が活動を開始したきっかけとは？

1986年4月26日午前1時23分。旧ソ連、ウクライナ共和国のチェルノブイリ原子力発電所で爆発が起きました。爆発に伴い、原子炉建屋が破壊され大量の放射性物質が放出されたのです。なにか支援ができないかと強く感じていた有志のみなさんが集まり1990年4月「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」を発足させたのです。現地の詳しい状況がわからない中、1990年8月「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」は代表者2名をウクライナで放射能被害の最も大きいジトミール州に派遣しました。

### ●ウクライナの誰に何を支援しているのか？

救援物資の中には抗生剤やインシュリンなどがありましたが、現地で必要な物資をリストアップしてもらい、そのリストに基づき、物資を調達していきましました。その後は現地で必要な物資の見積書を送ってもらい、日本で集めた支援金や寄付金を送金するシステムを構築していきました。

必要物資は時代と共に変化していきました。汚染された食物を摂取してきたお母さんたちは子どもに母乳を飲ませられなくなり粉ミルクが必要になったり、原発事故の処理にあたった作業員の被爆者の支援も必要になっていったのです。

### ●「菜の花プロジェクト」とは何？

救援活動の一環として皆さんが2007年からスタートさせたのが「菜の花プロジェクト」でした。具体的には、汚染地ナロジチ地区でナタネ栽培を促進し工業用にも利用価値の高いナタネ油の生産によって雇用の促進を目指しました。

そんな中、新しい発見がありました。ナタネに土地の浄化作用があることがわかってきたのです。ウランが核分裂してできる物質のひとつにセシウムがありますが、問題はセシウムには水に溶ける性質があり時間を経て土地にしみ込んでいくことでした。しかし、ナタネがセシウムを含む水分を吸い上げていったのです。その効果を世界に広く伝えることも現在の皆さんの新しい使命になっています。



汚染地域の病院へ医薬品を提供



緊急支援物資を受け取った現地スタッフ

### ●ロシアの侵攻に伴う現在のウクライナへの支援

今回のロシアの侵攻に伴い、緊急支援として、資金や物資の支援をしています。また、「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」の皆さんは定期的に「ポレーシェ」という名の雑誌を発行してウクライナの状況を紹介する活動も行っています。最新版の188号には、ロシアの侵攻に伴い「Zoom」で日々寄せられたウクライナ現地の仲間たちの声が掲載されていますのでいくつか抜粋してご紹介しましょう。

#### 2月28日

「皆さんが提案される支援のことですが私には何の保証もできません。お金を受け取ることも、両替することも、物品の買い付けや配布をすることもできないのです。」

#### 3月11日

「消防士たちは数日前、ポーランドから新しい救急車を提供されましたが、医療機器は装備されていませんでした。除細動器や心電計、酸素濃縮器が必要です。…州立孤児院から32人の子ども達は避難できましたが、30人の重度の障がい児が残っています。食品はまだあるようですが次のものを調達して欲しいと言われています。脂肪分2.5%の粉ミルク、低アルゲン性発酵乳粉ミルクあるいはコンデンスミルク。ほかに洗濯用洗剤やパンパース…」

ウクライナの切羽詰まった状況が伝わってきますね。私たちも、遠い国の出来事と他人事に捉えず、現地の人々の話を聞き、積極的な支援をしていければいいですね。

河田さん、貴重なお話ありがとうございました。

読者のみなさん、「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」では現在も寄付金を募っています。是非ともご協力をお願いします。

### ■名古屋市でのウクライナ支援について

名古屋市では、ウクライナ支援として「ウクライナ避難民支援登録制度」の実施及び「名古屋ウクライナ支援実行委員会」によるウクライナ避難民支援のための募金活動を行っています。

詳細は、インターネットで「名古屋市 ウクライナ支援」と検索して、「本市のウクライナ情勢への対応について」(名古屋市ホームページ)をご覧ください。

#### 【お問い合わせ】

NPO 法人チェルノブイリ救援・中部事務局  
TEL&FAX : 052-228-6813  
E-mail : chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

# ボランティア・ NPOウォッチング

団体の活動内容等を紹介するコーナーです。

ほっとはあと  
コーナー

ふれあい名古屋では、地域の人、ボランティアや企業、学校関係者などが読みたいと思うボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとボランティアクラブ（ボランティアの方々）と本会ボランティアセンターの協働編集（取材・執筆）による「ほっとはあとコーナー」を掲載しています。

## こだまおもちゃ病院

### 【団体概要・活動内容】

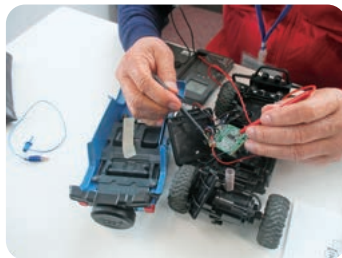
元気がないおもちゃを、ドクターが各々の特技を生かし、修理しています。区内2か所の図書館に毎月1回出店している他、区民まつり（11月）やボランティアまつり（3月）で出張修理も行っています。必要な部品が手元にない時、預かるおもちゃの数が多い時は「入院」してもらい、「治療」の上、1か月後に返却しています。

#### ○活動日

- ・西図書館（第1日曜日 午前9：30～正午）
- ・山田図書館（第3日曜日 午前9：30～正午）



持ち込まれたおもちゃを診察中…



入院中のおもちゃの治療の様子

### 【活動に参加している方の思い】

病院にやってきたおもちゃのどこが悪いのか探していき、様々な工夫をして修理する過程が「自分でつくっている」と実感でき、楽しみのひとつになっています。そして、預かったおもちゃを子どもたちに返却した時の“笑顔”が何よりの原動力です。

親御さんが使っていたおもちゃを修理して子どもと一緒に遊んでいる方もおり、自分たちの活動で親子の繋がりをより感じてもらえると思います。

#### 【お問い合わせ】

担当者氏名：岩尾 秀樹  
E-mail：bubuiwao@gmail.com

## らっこの会

### 【団体概要・活動内容】

千種児童館主催のおはなしボランティア講座受講後、児童館の勧めで読みきかせグループを結成しました。児童館でおはなしランドを第1・第3木曜午前2回開催しています。

絵本・紙芝居・パネルシアター・音楽で、乳幼児と親御さんがゆったり楽しめる場所を提供できればと思います。児童館等のイベントにも参加して、いろんな年齢の子どもたちと、おはなし会を通してふれあう事も大切にしています。



おはなしランド（パネル）



おはなしランド（大型絵本）

### 【活動者からのメッセージ】

読みきかせに興味をもって集まったメンバーですが、0才児が多く、興味をもってもらえるのか、戸惑う事が多々ありました。でも続けていく内に、参加者の楽しんでくれている気持ちが伝わってきて、私たちも試行錯誤しながら参加者と共に成長できたと思います。

現在メンバーは9名、お互いに学びあいながら頑張っています。これからも、楽しい時間を共に過ごしていきたいと思っています。

#### 【お問い合わせ】

名古屋市千種区社会福祉協議会  
TEL：(052)763-1531  
FAX：(052)763-1547  
E-mail：chikusaVC@nagoya-shakyo.or.jp



# きらっと ボランティア・NPOらいぶ

リレートーク 第7回目は、中部 ESD 拠点協議会事務局長の古澤礼太さん (中部大学准教授) に話を伺いました。



(インタビュー：旅する食いしん坊 YM)

『中部 ESD 拠点』の古澤さん

## ●『中部 ESD 拠点』とはどんな団体ですか？

中部 ESD 拠点は、「持続可能な開発 (発展)」の理念に基づき、地域の自然・経済・社会の諸課題を明らかにし、それらの解決に取り組む人材を育成するためのネットワーク団体 (事務局：中部大学内) です。伊勢湾と三河湾に注ぎ込む河川の流域全体を伊勢・三河湾流域圏と呼び、活動対象地域としています (愛知・岐阜・三重県とほぼ一致)。後述する「中部サステナ政策塾」や「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」などの活動にて、地域の課題を知り、解決方法を考え、課題解決策を実践するワークなどを行っています。

※ ESD は、Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」という意味。「SDGs を推進していくための人材育成」とも言い換えられます。

## ●『中部 ESD 拠点』設立までのあゆみを教えてください。

2005年、愛・地球博のクロージングフォーラム『持続可能な社会の創造をめざして』に大学生代表として参加しました。それから、国内外での研究生生活を経て、2007年に『中部 ESD 拠点』(国連大学が認定する ESD の地域拠点) の立ち上げに関わりました。

## ●「中部サステナ政策塾」とは？

サステナはサステナビリティ (持続可能性) の略で、SDGs 推進のためには、地域の課題やその解決策について学び合うだけでなく、具体的な政策を提言すること (課題解決の行動) が必要だという考えに基づき、そのための若い人材の育成を目指している塾 (講座) です。例えば、何らかの課題を抱えている地域に塾生と出向き、地元の人や NPO と連携して、課題解決にはどういった政策が有効か考えるフィールドワークを行ったりします。企業、行政、政治、市民活動、教育、大学生など多様な立場の塾生が、その地域を知って、課題解決について考え、連携し合って持続可能な社会づくりのため、政策提言につなぐ活動をしています。

## ●「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」とは？

伊勢・三河湾流域圏 (愛知・岐阜・三重県) において、生物多様性の保全教育をはじめました。絶滅危惧種や希少植物の保全は重要ですが、難しくわかりにくいので、私たちの生活や文化と関わりの深い「お祭り」に焦点を当てました。祭りに出てくる植物や動物、食材などに焦点を当てて、それらが育つ環境の問題などを学ぶワークショップを実施しています。例えば、犬山祭りの山車に使われる木曾檜に関連して、人工林の荒廃について学ぶワークショップを岐阜県中津川市加子母の森で開催しました。犬山祭り関係者を含む参加者が、間伐を体験することで森林の環境問題を考えました。これからも多くのワークショップを企画していきます。

## ●SDGs について改めてお聞きします。

S は“持続可能”、D は“開発 (発展)”、G は“目標”の意味で、合わせて“持続可能な開発目標”です。国際社会全体の諸課題について、国連が2016年から2030年を期限とする17の目標を設定しました。S のサステナブルという語は、「持続可能」という意味に加えて「持ちこたえる」という意味もあります。世界の様々な「持ちこたえられない」現実を受け止め、力を合わせて明るい未来を切り開いていきたいと思えます。

## 取材者から

取材しながら二つの言葉を思い出していました。一つは、動物行動学者 J さんに教えていただいた Baba Dioum のスピーチの中にあつたこんな言葉です。

「結局のところ、私たちは自分の愛するもの、理解したこと、教えてもらったことしか守り伝えることはできない。」(1968年国際自然保護連合の集まりで)

もう一つは、以前使われていた JICA 国際協力機構のキャッチフレーズです。

「国づくりは人づくり」

いずれも持続可能な開発のための教育 (ESD) の精神に通じるものだと思います。



グループワークの様子



ESD についての講義

## 【お問い合わせ】

中部 ESD 拠点ホームページ：  
[https://esdcenter.jp/kyoten\\_chubu-esd/](https://esdcenter.jp/kyoten_chubu-esd/)

※持続可能な開発のための教育を推進するため講座などを定期的に開催しています。

FAX：0568-51-4736



各区社協の  
職員に聞いた

# 地区のオススメのボランティア

第6回

## フレンズ

(インタビュー：市村カエル)

### ●「フレンズ」ってどんな団体？

「フレンズ」は地域の人がちよっと手を貸してほしい時、お手伝いをするボランティアです。モットーは、『無理せず、できる範囲でお手伝い』。メンバーは8人で、50代後半から70代半ばの方々が活躍しています。ヘルパーだったメンバーが、困りごとがあっても仕事の範疇ではできない隙間の作業をしようと考えたことがきっかけで始まりました。

よくあるお願いは病院の付き添い、買い物介助、散歩のお供、草取り、子どものお迎えなど。ちょっと変わったお願いで、図書館で本を借りて来る、ひとり暮らし高齢者の白内障の手術に付き添うなどもあったとか！

どの方もボランティア終了後に「ありがとう」の言葉をもらったりすると、やってよかったなと思うと言っていました。また、このボランティアをしていると、今は普通にできていることでも年齢を重ねると、大変になるんだと気づくことが多いそうです。そして、ボランティアをしていると何でもない日常生活を送っている時も、気軽にバスの席を譲ったりできるようになって、自然と優しくなれる、と充実感を語られていました。

### ●こんないいことがありました

90歳代のおじいさんの散歩に付き添っていた時のことです。こちらから話しかけても、うんと頷くだけの方でした。でも、おじいさんにとってこれは嬉しいことなんだと、隣にいて感じ取れました。回数を重ねるうちに飴玉をくれるようになって、信頼を得たと実感できた時はとても嬉しい気持ちになったそうです。



### ●ためになった気づきがたくさんです

車いすを押してちょっと外に出るだけでも、健常者なら簡単に避けたりできる段差・障害物が車いすの人にとって大きな問題であることがわかりました。他にも、買い物介助に行ってみると、高齢者はカートを押すだけでもかなり体力を消耗する、商品を取ってカゴに入れるのも難しい、財布からお金を出す、袋に商品を入れる、それぞれが大変で、買い物介助の必要性がわかりました。

### ●色々なケースがあるので、課題も色々です

病院の付き添いでは、診察室まで入っているのか、データを見ていいのか、サインなど求められたらしているのか、ボランティア中に、利用者が気分を悪くした時の対応はどうするか、などどこまでボランティアがやるのかという線引きを考えないといけません。

### ●最後に

新メンバーの方にこのボラを選んだ理由をお聞きすると、子育ても終わり、何かしたかった。自分1人で道路の掃除などもできるが、人の役に立つことをしたい、自分のペースで無理なくやりたいと思いつけた、とおっしゃっていました。同じような思いを持っている方、ぜひ一緒に活動しましょう！

また、メンバー同士お互い声を掛け合い、気に掛けることが活動が続く秘訣だそうです。「小さい愛情で人も自分も嬉しくなれる」みなさんそんな考えのもと活動してらっしゃるので、とてもいい顔をしていました。



### 【お問い合わせ】

南区個別支援ボランティア「フレンズ」事務局  
〒457-0058 南区前浜通3-10  
南区役所庁舎4階  
南区社会福祉協議会内 ボランティア担当まで  
TEL 052-823-2035 FAX 052-823-2688

## ほっとはあとクラブメンバーのつぶやき

名古屋では町内会（自治会）長が区政協力委員を兼任する習わらしいですね。元来目的の違う役職を一人で担うために、私の町内では会長さん一人が30もの役割を引き受けるはめに。平均年齢78歳の役員団、新しい住民激増で「あそこの息子さん／嫁さんに頼み込んでやってもらいまい。」式リクルートも不可能。何とかしなければということで、数年前から町内会サバイバル大作戦を手伝っています。作戦のポイントは次の3つ、

1. 仕事内容の見える化を図る。
2. 手順書を作って次期担当者を安心させる。
3. 時間労力の提供にふさわしい対価を以て感謝の気持ちを伝える。

年度末には皆さんの町内でも話題にさせていただけるような成果物にまとめたいと思います。どうぞご期待ください！

旅する食いしん坊 YM

からだに優しい  
いきいきレシピ

火を使わない冷製スープ

## 夏野菜のガスパチョ

スペイン発祥の冷たいスープ、ガスパチョです。野菜とパンを混ぜるだけ、煮込まないため手軽にできます。「飲むサラダ」とも言われ、暑くて食欲の落ちる夏でもたくさん野菜が取れます。

バゲットやワインビネガーがなければ、食パン（白い部分だけ）や酢でも代用できます。冷蔵庫で一晩寝かせて裏ごしすると、味がなじんで口当たりが滑らかになります。

材料(2人分)

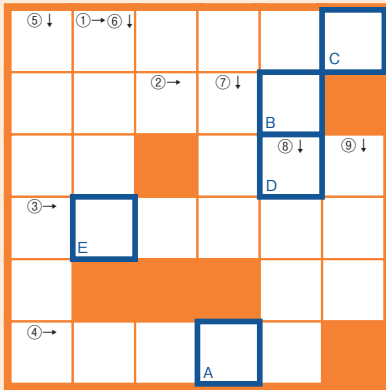
- トマト 3個
- キュウリ 1/2本
- ピーマン 1個
- パプリカ(赤) 1/2個
- タマネギ 1/4個
- バゲット(白い部分) 1切れ
- ニンニク 1/2片 (調味料)
- 塩 適宜
- コショウ 適宜
- ワインビネガー 大さじ1
- オリーブオイル 大さじ2



- 1 トマト、キュウリ、ピーマン、パプリカ、タマネギはざく切りにする。飾り用にトマト、キュウリ、パプリカを少量分けて、小さくカットしておく。
- 2 ニンニクはすりおろす。パンは小さくちぎる。
- 3 ①と②と調味料を、ミキサーかハンドブレンダーでかき混ぜる。液状になったら冷蔵庫で冷やす。
- 4 器に注ぎ、飾り用の野菜を散らす。オリーブオイル（分量外）を回しがける。

## プレゼントつきクイズ

クロスワードを解いて、色枠に入った文字をA～Eの順に並べると、何という言葉になるでしょう。



ヨコのカギ (小文字も大文字とします)

- ① 屋外で入浴する施設
- ② p7. 読みきかせグループの名称「○○の会」
- ③ p2-3. 令和3年から始まったのは「なごやか○○○○○○サポート事業」
- ④ p4. 千種区社協とコラボしているのは愛知○○○○○大学

タテのカギ

- ⑤ 東京湾で取れた魚介を酢飯にのせて握ります
- ⑥ イギリスの首都
- ⑦ 集まり、会合のこと
- ⑧ ○○○○と地獄
- ⑨ 竹から生まれた○○○姫

【応募要項】

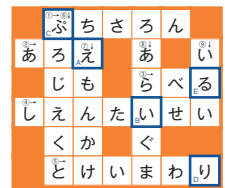
郵便はがきに①問題の答え、②住所、③氏名、④「ふれあい名古屋」本号で興味があった記事と理由、本紙に対するご意見を書いて下記までお送りください。  
締切は2022年8月31日必着。  
〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17-1  
名古屋市社会福祉協議会 「ふれあい名古屋」係

【正解発表】

2022年10月号誌上にて発表。正解者の中から抽選で10名様に名古屋市総合社会福祉会館にて展示・販売中の授産施設製品の中から500円相当の品を差し上げます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。個人情報について 応募いただいた個人情報は賞品の発送および本紙の企画以外に利用したり、第三者には提供しません。

前回の答え

えいぷりる



寄付・遺贈をお考えなら

名古屋市  
福祉基金

名古屋市  
社会福祉協議会

なごや  
よりどころ  
サポート事業

あなたのご寄付が大きな幸せに変わります



小学校での車いす体験



被災地への職員派遣



高齢者サロン

～本会では福祉に関わる様々な事業を行っています～

寄付の受付・  
お問い合わせ

社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 総務部  
TEL 052-911-3192 FAX 052-913-8553  
ホームページ https://www.nagoya-shakyo.jp/  
メール nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp



社協からのお知らせ

「みんなで学ぼう！ 障害者差別解消講座（無料講師派遣）」のご案内

名古屋市では、市民の皆様や企業の方々に『障害者差別解消法』に関する知識や理解を深めていただき、障害のある人もない人もともに尊重しあいながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざしています。本センターでは、障害者差別解消を目的に出前講座を行っています。ぜひご活用ください。

内容：障害の考え方と差別解消法／相談事例から学ぶ合理的配慮 等  
対象：市内の団体、グループ、企業 等                      オンライン開催 OK

お問い合わせ      名古屋市障害者差別相談センター  
TEL：052-856-8181    FAX：052-919-7585  
Email：inclu@nagoya-sabetsusoudan.jp



名古屋市鯉城学園が公開講座（無料）を開催します

名古屋市鯉城学園では、7月に市民向け公開講座を開催します。  
徳川美術館 副館長兼学芸部長 神谷 浩先生をお招きして「北斎か、広重かーくらべて際立つふたつの個性ー」をテーマに江戸時代を代表する浮世絵の世界について講演をしていただきます。

日時：令和4年7月15日（金）午前10時～午前11時30分      場所：伏見ライフプラザ 5階 鯉城ホール

お問い合わせ      名古屋市高年大学鯉城学園      TEL：052-222-7521                      ※詳しくは、広報なごや7月号をご覧ください。

『名古屋市認知症コールセンター』のご案内

認知症コールセンターは、認知症専門の電話相談窓口です。介護経験者や社会福祉士などの専門職が、症状や介護や受診等認知症に関するさまざまな相談に対応しています。もし、一人で抱え込んでいたり、悩んでいる方は、お気軽にご相談ください。

相談例：最近もの忘れが多くて／介護のことでちょっと話を聞いてほしい／認知症の人が使えるサービスは何かあるのかしら？／家族が認知症かもしれないけど、病院に行きたくないみたい。

受付時間：平日の午前10時から午後4時、火曜日のみ午後2時～午後8時（年末年始・祝日除く）

相談料：無料（通話料がかかります）



お問い合わせ      名古屋市認知症コールセンター      TEL：052-734-7089

「東日本大震災語り部ボランティア派遣」 派遣先募集のお知らせ

東日本大震災を経験し、名古屋へ避難されてきた方による「語り部ボランティア派遣」を実施しています。

当時の被災体験やこれまでの生活、名古屋に住む人へのメッセージをお伝えします。地域の皆様の防災意識の向上や、被災者の方への理解を深める機会に活用していただきたいと考えています。皆様からのお申込みをお待ちしています。



対象：市内において、語り部によるお話を希望される団体など      内容：講話と質疑応答（30分～60分ほど）

費用：交通費のご負担をお願いします      申込方法：開催日の2か月前までに電話、FAXにてお申込

お問い合わせ      東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや  
担当：岡田、加藤      TEL：052-911-3180      FAX：052-917-0702

## ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介

### ご寄付ありがとうございました

令和4年3月1日～令和4年5月31日受付分（敬称略、順不同）

#### 福祉基金への寄付

住友 誠 / 岐阜信用金庫 / フクシマガリレイ株式会社中部支社 /  
 有限会社三洋サービス / 中部交通共済協同組合 /  
 マルハン新守山駅前店・一般社団法人わくわく委員会 / 水谷 巍 /  
 株式会社ゴールドサービス / ダイド一株式会社 /  
 名古屋市健康福祉局職員ワンコイン運動 /  
 名古屋市子ども青少年局職員ワンコイン運動 / 匿名21件

#### 市社会福祉協議会への寄付

匿名1件

### 市社協サポーター（賛助会員）のご紹介

令和3年度・令和4年度会員（令和4年5月31日現在）（敬称略、順不同）

仁木 雅子 / 中央法規出版株式会社岐阜営業所 /  
 小池 博美 / 渡辺 賢次 / 株式会社マルワ /  
 鷺見 修 / 木村 剛 / 株式会社せがわ住機 /  
 タック株式会社 / 富田 哲生 / 三谷 洋一 / 北村 泰幸 /  
 株式会社サンエネック / 上村 成良 / 永井 瑛資 /  
 Kのキンパ / 越俣 加絵 / 水谷 巍 /  
 東洋羽毛東海販売株式会社 / 株式会社ウイングス /  
 石田 栄美子 / 立松 博 / 株式会社ラングロバル /  
 船木 陽子 / 匿名6件

## ご寄託ありがとうございました

### 使用済切手・書き損じはがき・使用済テレホンカードなど 令和4年3月1日～令和4年5月31日受付分（敬称略、順不同）

鳶井株式会社 / どんとクイズ教育研究所 / 名古屋市立西山小学校 PTA / 田村富士雄 / 平井英司 /  
 株式会社港北自動車 / 寄鷺会 / 北区消費者クラブ / 中川区手をつなぐ育成会 / 北鯨城会 /  
 ハリキッテ友の会 世話人 毛利 碩 / マミーベア保育園うえだきた / 日東建材株式会社 / 川井孝司 / 伊藤福子 /  
 林正子 / 牧野敏子 / 高橋孝次 / 天白まちづくりサポータークラブ / 小出幸枝 / 愛知時計電機株式会社 / 東・北・中村・中・  
 昭和・瑞穂・熱田・中川・守山・緑・天白区社会福祉協議会受付分 / 匿名20件

ご寄託いただいた使用済切手等は、次の団体に送付しました。

団体名	活用方法
社会福祉法人 聖明福祉協会	視力障害の大学生の奨学資金の一部など
世界の子どもにワクチンを 日本委員会	ワクチン支援
ベルマーク教育助成財団	教育環境整備への助成

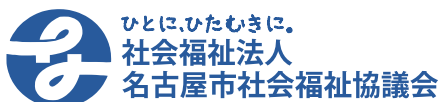
※使用済切手・書き損じはがき・ベルマークなどの寄付希望がありましたら、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンターまでお届けください。お届けの際は、本広報誌へのお名前掲載の可否及び郵送希望の有無をお知らせください。

## じむきょくちょうのつがやき

3月に福祉基金40周年記念の催しとして「終活」に関するセミナーを開催しました。当日は、高齢者など多くの方が参加され、この問題への関心の高さを実感しました。相続や遺言の事など弁護士からのアドバイスのほか、社協が行っている「なごやかエンディングサポート事業」の説明があり、終了後、参加者からは「いい話が聞けた」と前向きな反応がありました。「後に残された人が困らない」、「自分もこれからの人生を安心して過ごすことができる」という終活の意義を聞き、そろそろエンディングノートを準備しようかと思い始めています。



名古屋市社会福祉協議会事務局長 柄澤 克彦



ひとに、ひたむきに。  
**社会福祉法人**  
**名古屋市社会福祉協議会**

〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17番1号 名古屋市総合社会福祉会館内

TEL : 052-911-3192 FAX : 052-913-8553

ホームページ : <https://www.nagoya-shakyo.jp/>

E-mail : [nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp](mailto:nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp)

※この広報紙は福祉基金を活用して作成しています。

※この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

※市内社会福祉施設、民生委員・児童委員、大学などへの配布及び公共施設に配架しています。

広報紙「ふれあい名古屋 No.137」発行日：令和4年7月1日

発行部数：12,000部

